

## 1 下関市の概要

下関市は、本州の最西端、山陽道と山陰道の起終点に位置しています。関門海峡を挟んで九州と対しており、朝鮮半島や中国大陸にも近く、古くから海陸交通の要衝として栄えてきました。

本市は、明治22年4月1日に我が国で初めて市制が施行され、全国で31の市が誕生したときに「赤間関市」として発足し、その後、明治35年6月に現在の「下関市」と改称しました。

その後、数次にわたって周辺町村との合併を行い、平成17年2月13日には豊浦郡4町との合併により、人口約30万人、面積約715平方キロメートルの新しい下関市が誕生し、同年10月1日には、県内初の中核市へ移行しました。

本市は、都市機能の整備と優れた都市環境を形成するため、温暖な気候、交通の要衝、豊かな歴史と自然に恵まれた県下最大の人口を有する地方核都市として、未来へ向けた理想的な都市づくりに前進しています。

## 2 事業の目的

本事業は下関駅周辺において、本市の玄関口にふさわしい魅力ある集客・交流機能の導入や、既存施設（シーモール下関、商店街グリーンモール、市民会館、市民活動センター等）と十分連携した相乗効果の期待できる拠点整備を行い、下関駅周辺の回遊性を高め、交流によるにぎわい創出を図ることを目的としております。

このため、「下関駅周辺のにぎわい・交流拠点の創出、街なか生活の再生、街なか回遊を創出するまちづくり」を大目標として、次の3つの目標を掲げました。

1. 多彩な魅力が備わり、ゆっくり訪れたい街
2. 愛着をもって、いきいきと暮らせる街
3. 歩きたくなる、回遊したくなる街

そして、これらの目標の実現を図るため、民間活力を活用して「JR下関駅ビル」、「シネマコンプレックス・立体駐車場」を整備し、市が駅前広場などの面的整備を行いました。

## 3 事業までの経緯

平成15年 1月13日：JR鉄道関連施設整備推進協議会設置（下関市、西日本旅客鉄道(株)）

平成17年 2月 3日：「下関駅舎改築プラン作成協議会」設置（下関市、西日本旅客鉄道(株)、(株)山口銀行）

平成17年12月28日：「下関駅にぎわいプロジェクト」基本構想の公表

平成18年 1月 7日：下関駅舎の焼失

平成20年12月12日：「下関駅にぎわいプロジェクト」基本計画の公表

平成22年 7月12日：下関市と西日本旅客鉄道(株)広島支社 事業合意（共同記者会見）

平成23年 5月17日：下関駅舎部工事着手

平成24年 7月31日：下関地域鉄道部ビル供用開始

平成24年12月12日：JR下関駅ビル安全祈願祭（JR下関駅ビル工事着手）

平成25年 2月26日：シネマコンプレックス・立体駐車場起工式

平成25年 3月27日：下関駅名店街リニューアルオープン

平成25年 5月12日：下関駅業務施設供用開始（出改札を高架下1階から高架下中2階に移転）

平成26年 2月26日：下関大丸2階玄関オープン

平成26年 3月16日：下関駅駅舎・東西連絡通路完成及びJR下関駅ビル・リピエのオープン

平成26年 4月 1日：次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」供用開始

平成26年 7月 1日：西口駅前広場供用開始

平成26年 7月 3日：南口交通広場、東南広場連絡通路供用開始

平成26年 7月 5日：シネマコンプレックス・立体駐車場オープン

平成26年 9月 1日：下関駅北・南自転車駐車場供用開始

平成26年11月 1日：下関駅原動機付自転車等駐車場供用開始

平成27年 3月30日：東口駅前広場供用開始

# 下関駅にぎわいプロジェクト計画平面図

社会資本整備総合交付金  
(暮らし・にぎわい再生事業)

社会資本整備総合交付金  
(都市再生整備計画事業)

